

女性の防災意識のヒアリング

一昨年度から関わっています、木造密集市街地の防災。今年度は、女性の視点から捉えようとヒアリングを行っています。

女性ならではの視点や心構えなどを伺いました。

☆女性だけでヒアリング会

防災となると、どうしても男性の方の出番が多いようです。実際に、昨年度、一昨年度行った防災ワークショップでは、女性の出席は極めて少なかったようです。

地域社会の中では、まだまだ男性が表に出るという習慣が残っているのでしょうか。そこで、女性だけが集まれば、忌憚のないご意見をうかがえるのではないかと、今年度は、いつもの会議室から場所を変え、カフェっぽい場所で、女性だけのヒアリングを行っています。

☆女性の防災意識は高い

ヒアリングをしてみると、やはり、女性の防災意識も高いことわかりました。さらに、日常に密着した対策もお一人お一人、考えて覚悟もしていらっしゃいました。「あその家には独居の高齢者がいて、体調があまりよくないみたいなので、いざというときは、私がいかなくては！」「以前の豪雨のときには、防災のサイレンが聞こえなかった。市の防災メールを受信できるようにした。(もちろん、そのサイト情報は共有しました)」など、たくさん意見が出ました。



☆地域としての意見をまとめる

せっかくいただいた貴重なご意見です。参加されなかった方々にも見ていただけるような形式にまとめたいと考えています。地震や火事、豪雨など、いざというとき、どんなことをすればいいのか？何を持ち出せばいいのか？同じ地域に住む女性がまとめたものには、その地域ならではの知恵も盛り込まれます。地元の方々に、より有効なものにしたいと考えています。

☆今回、ヒアリングをしてみて、女性もいろいろなアイデアをお持ちなのだということを実感しました。ワークショップにはなかなかお声がかからないのかもしれないし、赤ちゃんがいると出づらいということがあるのかもしれない。ワークショップにいらっしやらない方に、お話を聞きに行くということも大切なことだと思いました。